

2017/12/16 第 22 回基礎体温計測推進研究会定例会報告

2017 年 12 月 27 日

基礎体温計測推進研究会事務局

12 月 16 日（土）13 時半より東京・四ツ谷の主婦会館 3F の会議室で開催した第 22 回基礎体温計測推進研究会定例会についてご報告いたします。

最初に堀口貞夫会長より、これまで 11 年間継続し、第 22 回を迎えた基礎体温計測推進研究会の成り立ちをお話いただき、講師である、泌尿器科医師・岩室紳也先生をご紹介いただきました。

岩室先生には、堀口先生に頼まれてはお断りできないと、ご多忙のなか講演をご快諾いただいた次第です。



講演 「コンドームより大事な性感染症・HIV/AIDS、望まない妊娠の予防方法とは」

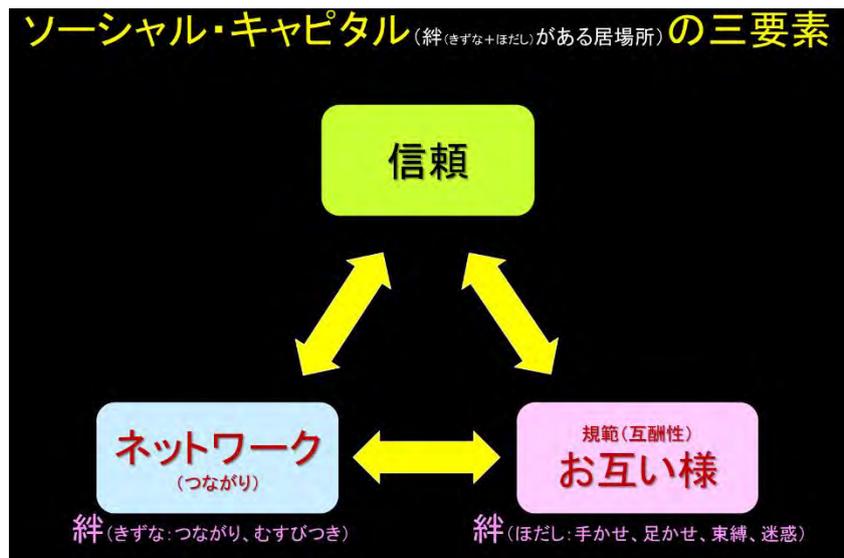
ヘルスプロモーション推進センター(オフィスいわむろ) 岩室 紳也先生



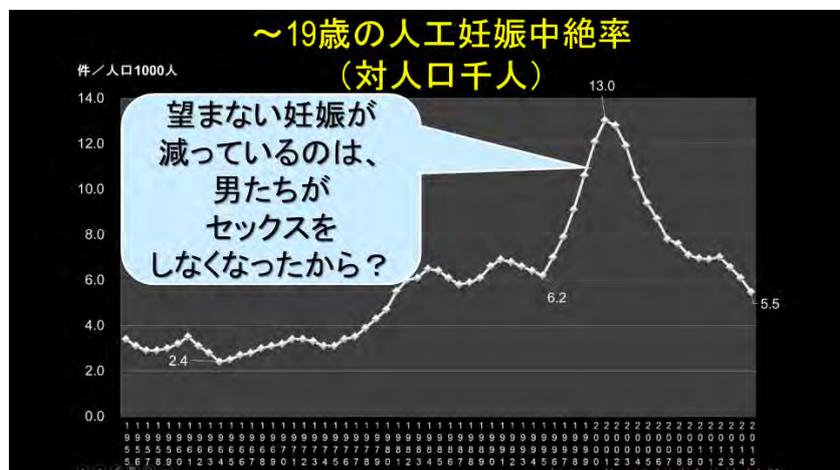
基礎体温からは少しテーマがそれるかもしれないとは思いつつも、ぜひに！とお願いし実現したご講演は、素晴らしい内容で、会長から早くも第 2 弾のお話が聞きたいとリクエストがありまし

た。本研究会と同じ「性」をテーマに、長年研究や医療、教育に携わってこられた岩室先生より、日本の現状を分析した、楽しくも興味深いお話しをうかがうことができました。

人は経験に学ぶもので、様々な経験をするまでは、他人事だが、自ら解決したい課題（例えば性のトラブルなど）が出てきた時に、それを解消するために、課題の根っこ（ネット・悪仲間・知識不足・家庭問題）対策・リスク対策という視点が重要になってきます。そこに大切なのは、かかわり・つながり・ささえ続ける環境や複数の居場所です。自立するためには、依存先（＝居場所）を増やすこと、絆（きずな+ほだし）などの関係性が不可欠になります。健康面やその他のソーシャルキャピタルの効用を考えた時も、つながりや居場所がキーワードになりそうです。



スマホや携帯で自分中心のコミュニケーションを作り出してしまいう現代で、情報がどんなに正確でも、教育をどのように充実させても、知識が増えるだけで問題の解決には至りません。対話・関係性・絆（きずな+ほだし）を通した課題の実感、感動や経験の共有、ピア（居場所）の仲間からのプレッシャーが、「Life Skill」である生きる力や健康を育むというのが「健康づくり」、「人づくり」の基本です。



さらに、自分で決められない、恋愛できなくても困らない童貞連合の話題にも驚きましたが、何よりも、「妊娠に気がつけぬ女の子が増えている」という事実があります。大人たちがもっと子どもたちとつながらなくては、と改めて思いました。

セックスに対する考え方についても、純潔が一番、ノーセックスか？コンドームか？、結婚前提ならOK、ゲイもOK、性についての道徳を教えたい、ピル推進派、中絶反対などいろいろあるが、できることから一歩ずつと多様性を受け入れる社会を、そして、多様な大人とつながる中で子どもが育つ社会を！という先生の言葉が印象に残りました。



企業発表 「女性と医師をつなぐサポートツール ルナルナメディコのご紹介」

株式会社エムティーアイ ルナルナ事業部事業部長 日根 麻綾さん

企業発表は、「すべての女性の幸せの実現に貢献する」をミッションとして 2000 年に携帯サイトがスタート、月経開始日や排卵日を予測し女性の身体と心のサポートをするサービスを続けてきたルナルナについて、事業部長の日根さんよりお話をいただきました。（エムティーアイ社には、当研究会発足当時から、企業会員としてご協力・ご支援をいただいています）

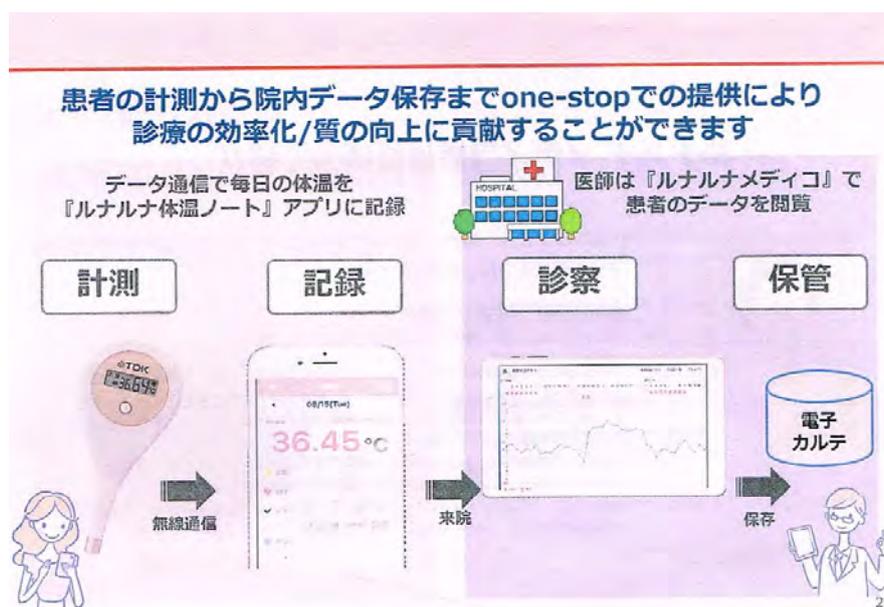
月経日管理アプリとして「ルナルナ」は現在利用者No1で、すでに1,100万インストールを突破、その中の約半数が月に1回はアクセスしているそうです。またその中で約100万人の女性が妊娠を目指しており、毎月1万人が実際に妊娠に至っているそうです。

また数百万人分のビッグデータを活用し、その分析結果を排卵日予測に役立て、ユーザーに還元している循環ができているとのこと。医学研究へのデータ活用も行い、クリニックや大学等研究にも、データを提供し共同研究や論文発表を行っているそうです。

そんな中、産婦人科診療現場に導入し、患者が計測した基礎体温をタブレットで医師が確認でき



るサービス、ルナルナメディコが2017年6月1日スタートし、電子カルテとして、データ保存を行えるシステムを目指しているとのことでした。



発表後会場からは、医療機器の認可取得の有無についてなど、活発な質問が出されました。今回の「ルナルナメディコ」は医療機器にはしない方針で、患者さんのスマホを見せられても、医師はグラフが細かくてよくわからないという点を解消するため、患者が持っているものを大きくしてみる「虫メガネ」をイメージしているとのことでした。



京都大学の江川美保先生からは、医療機関が変わった場合の対応について、質問がありました。現状は、ルナルナサーバーが発行した6桁の番号を医師に伝え、グラフを表示させるのですが、このパスワードは24時間でリセットされるため、医療機関が変わっても安心とのことでした。

研究会の後は、いつものように 8F に会場を移し、懇親会を行いました。戸川先生の乾杯のご挨拶で始まり、美味しい食事をいただきながらの交流会。

今回、メーカーなど企業のメンバーも多く出席いただきましたが、懇親会中盤では自己紹介タイムもあり、親睦を深めることができました。



次回、第 23 回定例会は、2018 年 6 月 23 日（土）主婦会館プラザエフにて開催を予定しております。陳文西先生にご発表いただくこととなり、楽しみです。みなさま半年後も、ぜひご参加ください。またお目にかかるのを、楽しみにしております。